



株式会社 **ニコン**
広報・IR部

2012年3月期 第1四半期 決算説明会

2011年8月10日
株式会社ニコン

※本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的リスク及び不確実性が含まれます。従いまして、様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく乖離する結果となる可能性があることをご承知おきください。

Agenda

- I . 2012年3月期 第1四半期の概況**
- II . 2012年3月期の見通し
- III . 参考データ

2012年3月期 第1四半期 連結売上高・損益

株式会社ニコン
広報・IR部



単位: 億円	11年3月期 1Q	12年3月期 1Q	前年実績比
売上高	2,052	2,456	+404
営業利益 売上高比	113 5.5 %	369 15.0 %	+256
経常利益 売上高比	127 6.2 %	378 15.4 %	+251
当期純利益 売上高比	82 4.0 %	307 12.5 %	+225
FCF	276	14	▲262
為替: ドル ユーロ	92円 117円	82円 117円	売上高への影響 ▲127 営業利益への影響 ▲23

震災による部材サプライチェーンのダメージは想定より早く回復。精機・映像ともに大幅な増収・増益。円高を吸収し、全社では約2割の増収・大幅増益

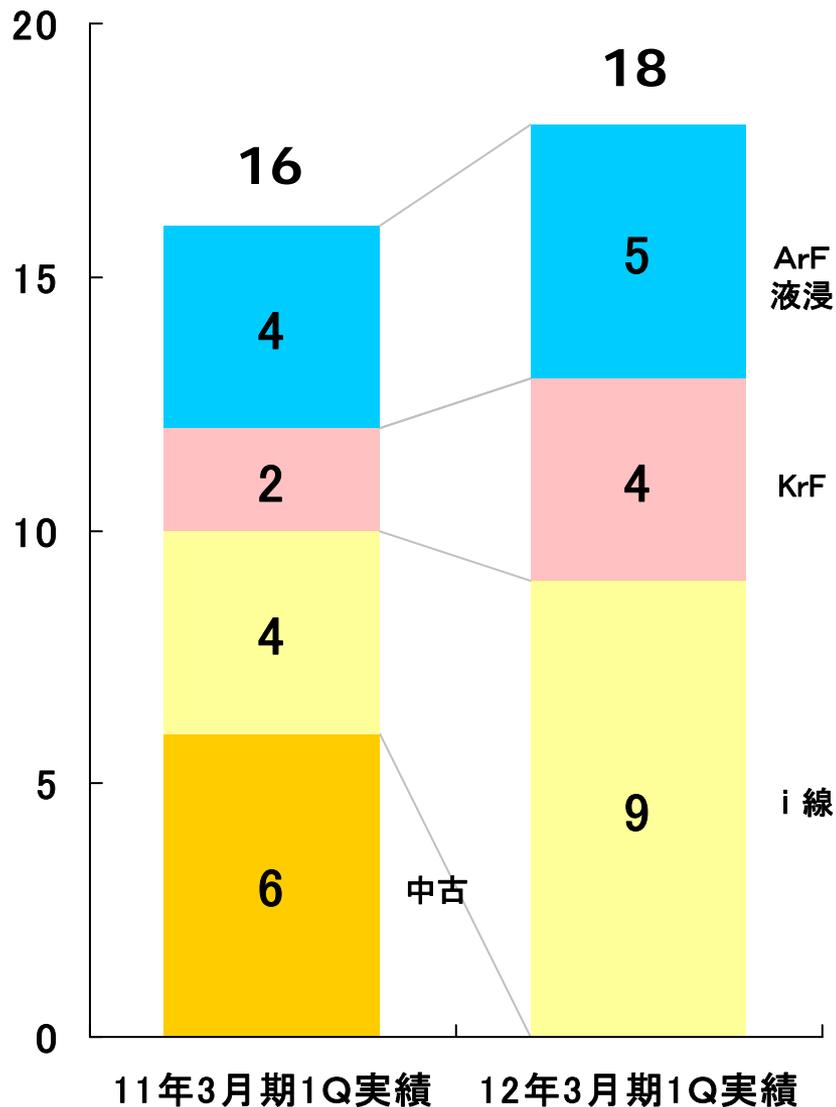
* スライドで使用している数値はすべて億円未満は四捨五入してあります。

単位: 億円	11年3月期 1Q	12年3月期 1Q	前年実績比
売上高	403	617	+214
営業利益 実績(参考:新方式) 売上高比	▲6 (7) — % (1.7 %)	106 17.2 %	+99
半導体露光装置 新品/中古	10/6台	11/7台	+1/+1台
液晶露光装置	14台	24台	+10台

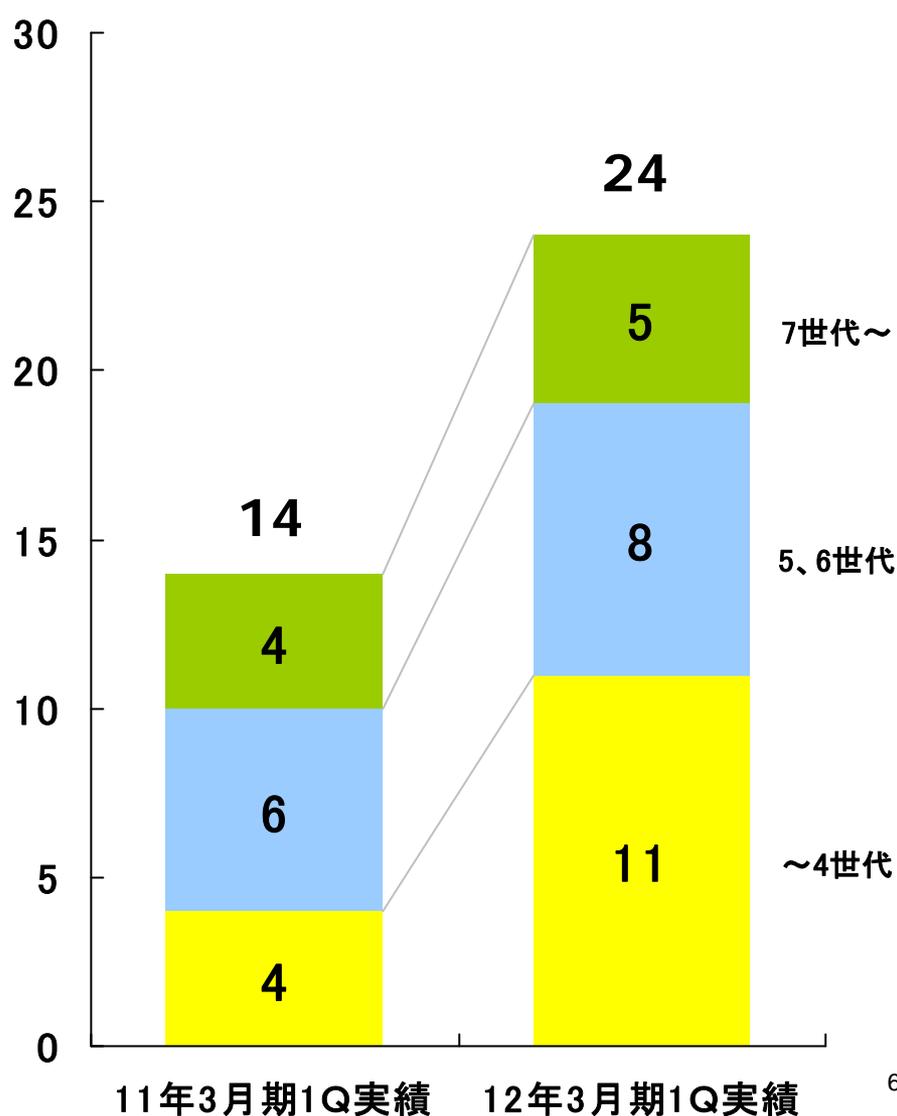
最新ArF液浸スキャナー「S620D」と、中小型パネル向け液晶露光装置の販売台数が増加。53%増収、大幅な営業増益

半導体露光装置光源別販売台数(中古含む) 液晶露光装置世代別販売台数

単位:台



単位:台



単位: 億円	11年3月期 1Q	12年3月期 1Q	前年実績比
売上高	1,488	1,670	+182
営業利益 実績(参考:新方式) 売上高比	140 (164) 9.4 % (11.0%)	318 19.0 %	+154
デジタル 一眼レフカメラ	105万台	136万台	+ 31万台
交換レンズ	156万本	200万本	+ 44万本
コンパクト デジタルカメラ	346万台	395万台	+ 49万台

部材サプライチェーンの回復に注力。需要が好調な一眼レフ・交換レンズについては、安定した生産体制を確保できた。コンパクトタイプの販売も好調。この結果、円高の逆風のなか12%増収、94%増益

単位: 億円	11年3月期 1Q	12年3月期 1Q	前年実績比
売上高	109	111	+2
営業利益 実績(参考:新方式) 売上高比	▲26 (▲23) — % (— %)	▲20 — %	+3

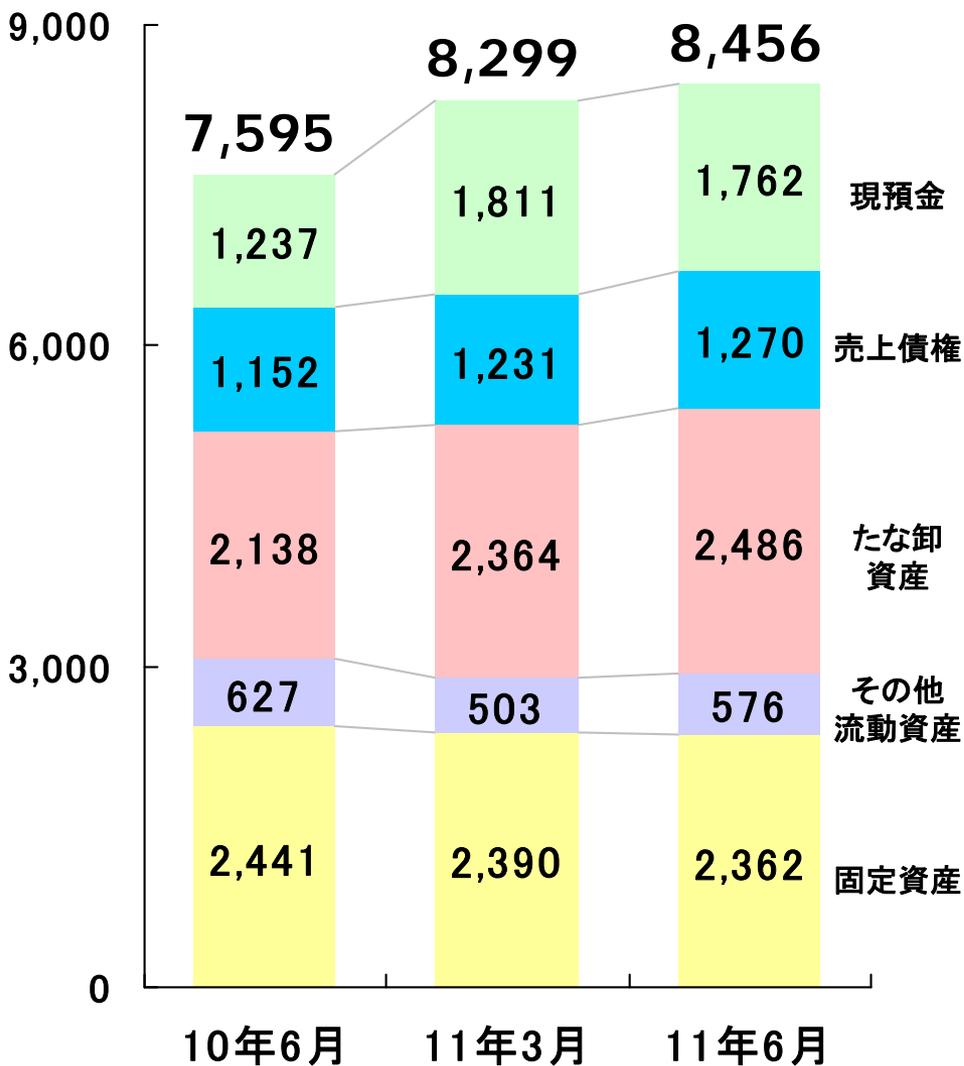
バイオサイエンス分野は円高影響などで減収、産業機器分野は増収。
カンパニーとしては、微増収・赤字幅縮小

2012年3月期 第1四半期 B/S内訳

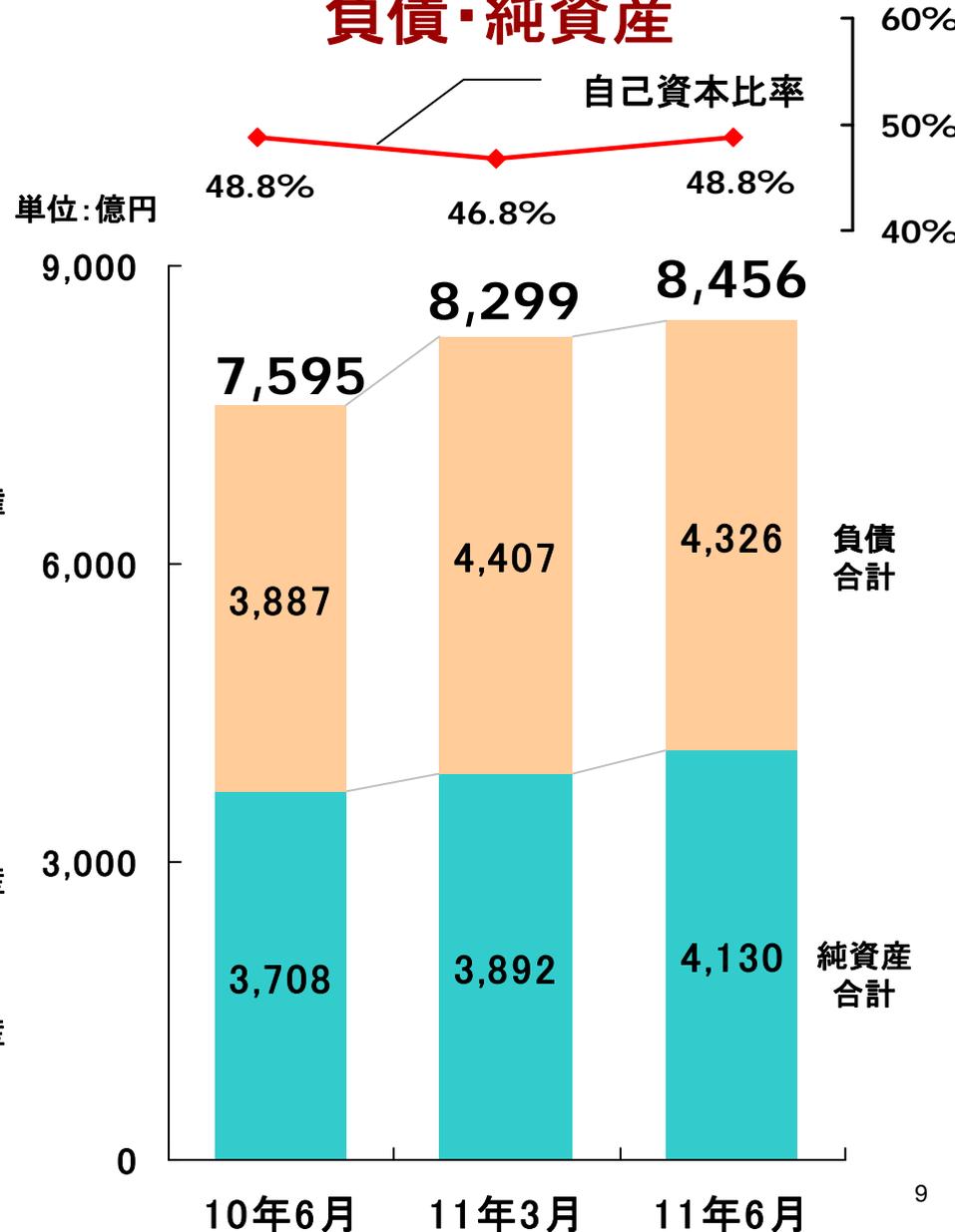
資産

負債・純資産

単位：億円



単位：億円



◆部材サプライチェーンは想定より早く回復。 前年1Q比 約2割増収、営業利益は約3.3倍

【精機】

- ・ArF液浸スキャナーの製品ミックスが新製品(S620D)にシフト
- ・高精細中小型パネルの需要増により、4世代以下の液晶露光装置の販売台数が増加
- ・53%増収、100億円近い営業増益

【映像】

- ・一眼レフ・交換レンズは、好調な需要に応えることができた。
コンパクトタイプは市場がマイナス成長のなか、14%の販売台数増
- ・円高の悪影響を吸収して、12%増収、94%増益

【インストルメンツ】

- ・産業機器分野の増収で赤字幅縮小

Agenda

- I. 2012年3月期 第1四半期の概況
- II. 2012年3月期の見通し**
- III. 参考データ

2012年3月期 見通し 連結売上高・損益

単位: 億円	11年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (5/12)	上期 下期	12年3月期 見通し	上期 下期	前年 実績比	前回 予想比	上期 下期
売上高	8,875	$\frac{3,980}{4,895}$	9,400	$\frac{4,350}{5,050}$	9,900	$\frac{4,750}{5,150}$	+1,025	+500	$\frac{400}{100}$
営業利益 売上高比	541 6.1 %	$\frac{152}{389}$	680 7.2 %	$\frac{250}{430}$	860 8.7 %	$\frac{460}{400}$	+319	+180	$\frac{210}{\blacktriangle 30}$
経常利益 売上高比	558 6.3 %	$\frac{178}{380}$	700 7.4 %	$\frac{260}{440}$	890 9.0 %	$\frac{480}{410}$	+332	+190	$\frac{220}{\blacktriangle 30}$
当期純利益 売上高比	273 3.1 %	$\frac{106}{167}$	420 4.5 %	$\frac{160}{260}$	600 6.1 %	$\frac{360}{240}$	+327	+180	$\frac{200}{\blacktriangle 20}$
FCF	1,000		500		600		▲400	+100	—
為替:ドル	86円	$\frac{89円}{82円}$	80円		80円	$\frac{81円}{80円}$			
ユーロ	113円	$\frac{114円}{112円}$	115円		112円	$\frac{114円}{110円}$			

ユーロ前提を円高に変更する。下期には欧米景気の変調、半導体設備投資抑制などの懸念があるが、1Q実績を踏まえ通期の売上高と営業利益を上方修正する

* 前回予想とは2011年5月12日発表における予想です。

2012年3月期 見通し 精機カンパニー

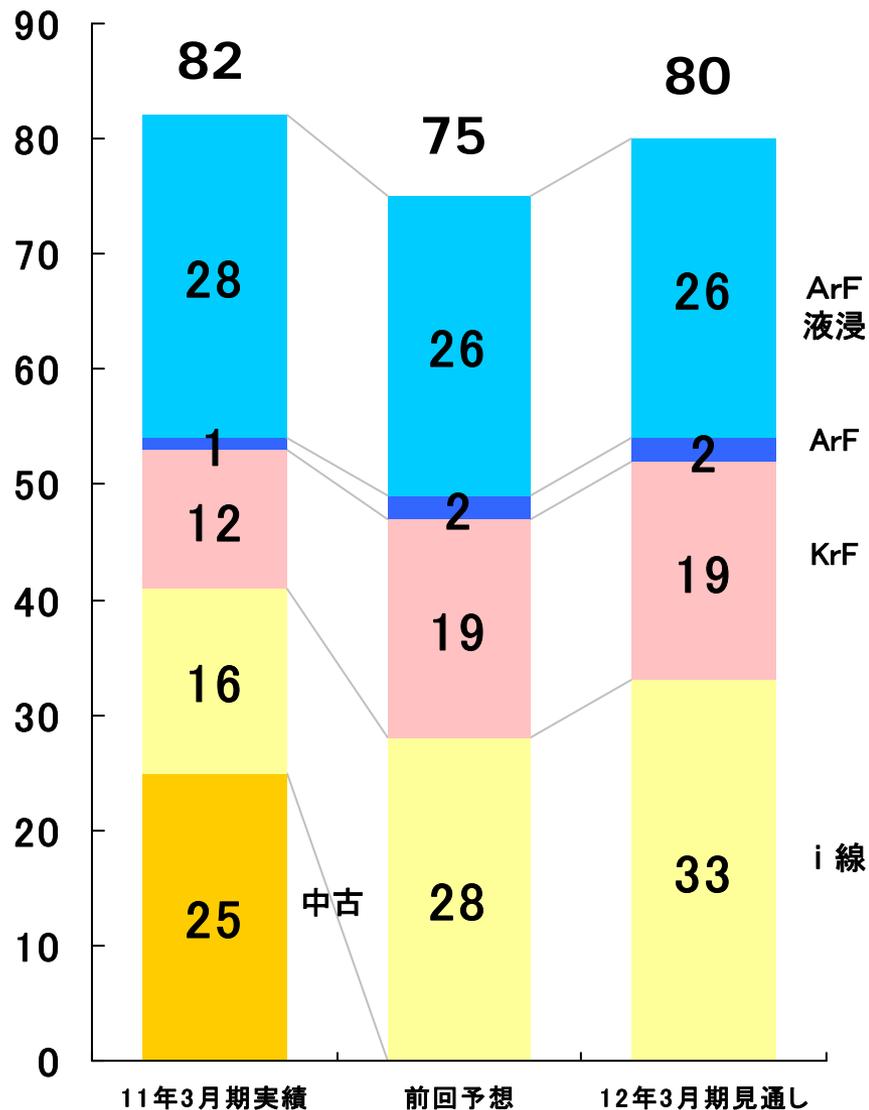
単位: 億円	11年3月期	上期	前回予想	上期	12年3月期	上期
	実績	下期	(5/12)	下期	見通し	下期
売上高	2,086	$\frac{807}{1,279}$	2,650	$\frac{1,230}{1,420}$	2,650	$\frac{1,300}{1,350}$
営業利益 実績(参考:新方式) 売上高比	27(83) 1.3 % (4.0%)	$\frac{\blacktriangle 47}{74} \left(\frac{\blacktriangle 20}{103} \right)$	310 11.7 %	$\frac{130}{180}$	310 11.7 %	$\frac{170}{140}$
半導体露光装置 新品/中古	57/25台	$\frac{18/12}{39/13}$	60/15台	$\frac{25/8}{35/7}$	60/20台	$\frac{25/13}{35/7}$
液晶露光装置	57台	$\frac{23}{34}$	82台	$\frac{44}{38}$	82台	$\frac{48}{34}$
半導体露光装置 市場規模 CY10/11	228台		280台程度		280台程度	
液晶露光装置 市場規模 CY10/11	112台		120台程度		120台程度	

液晶露光装置の販売タイミングに前倒しがあり、上期を上方修正する。下期は半導体向け設備投資抑制の影響が懸念されるため、通期の予想は据え置く

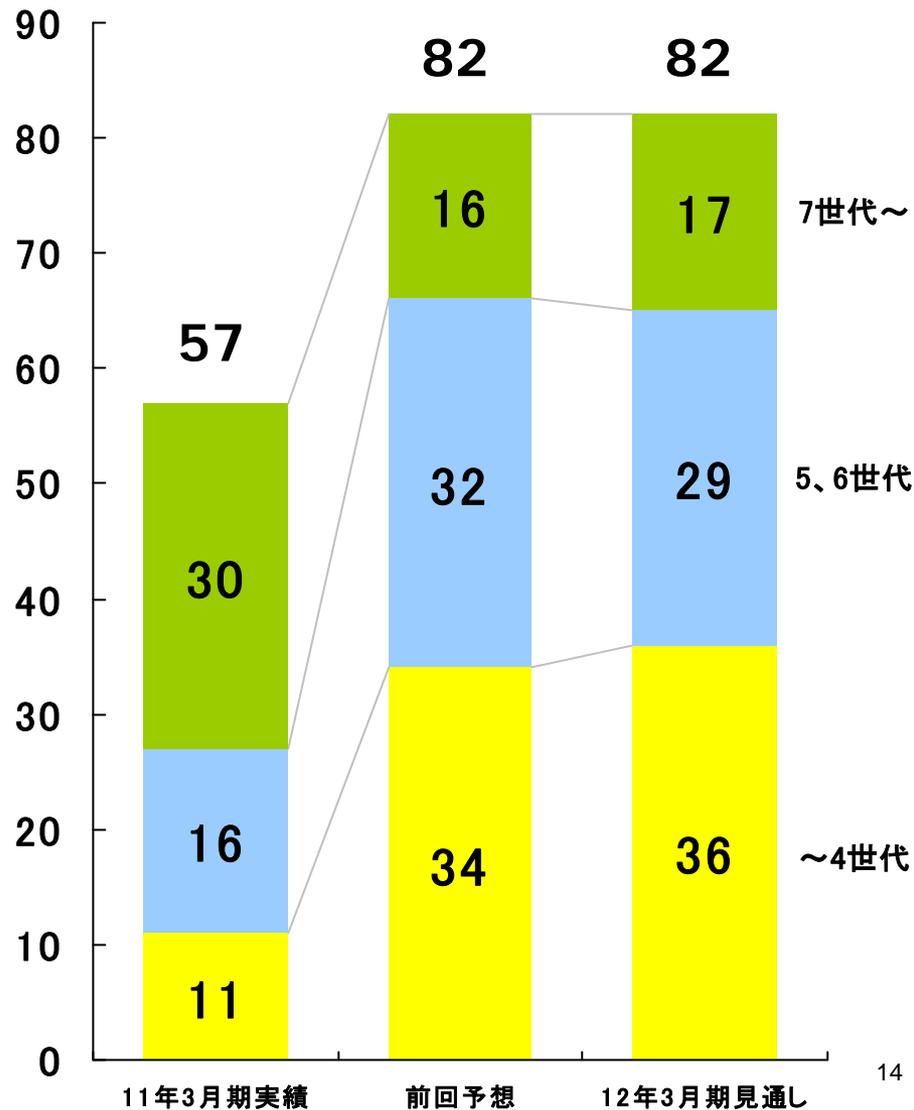
2012年3月期 見通し 精機カンパニー

半導体露光装置光源別販売台数(中古含む) 液晶露光装置世代別販売台数

単位:台



単位:台



2012年3月期 見通し 映像カンパニー



単位: 億円	11年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (5/12)	上期 下期	12年3月期 見通し	上期 下期
売上高	5,964	$\frac{2,818}{3,146}$	5,850	$\frac{2,750}{3,100}$	6,400	$\frac{3,100}{3,300}$
営業利益 実績(参考:新方式) 売上高比	523(614) 8.8%(10.3%)	$\frac{223}{300}$ ($\frac{269}{345}$)	530 9.1%	$\frac{240}{290}$	710 11.1%	$\frac{420}{290}$
デジタル 一眼レフカメラ	429万台	$\frac{190}{239}$	前年比微増		540万台	$\frac{250}{290}$
交換レンズ	636万本	$\frac{295}{341}$	前年比微増		760万本	$\frac{350}{410}$
コンパクト デジタルカメラ	1,426万台	$\frac{670}{756}$	ほぼ前年並み		1,550万台	$\frac{750}{800}$
デジタル一眼レフ カメラ市場規模	1,414万台		—		1,600万台	
交換レンズ 市場規模	2,327万本		—		2,600万本	
コンパクトデジタル カメラ市場規模	10,741万台		—		10,000万台	

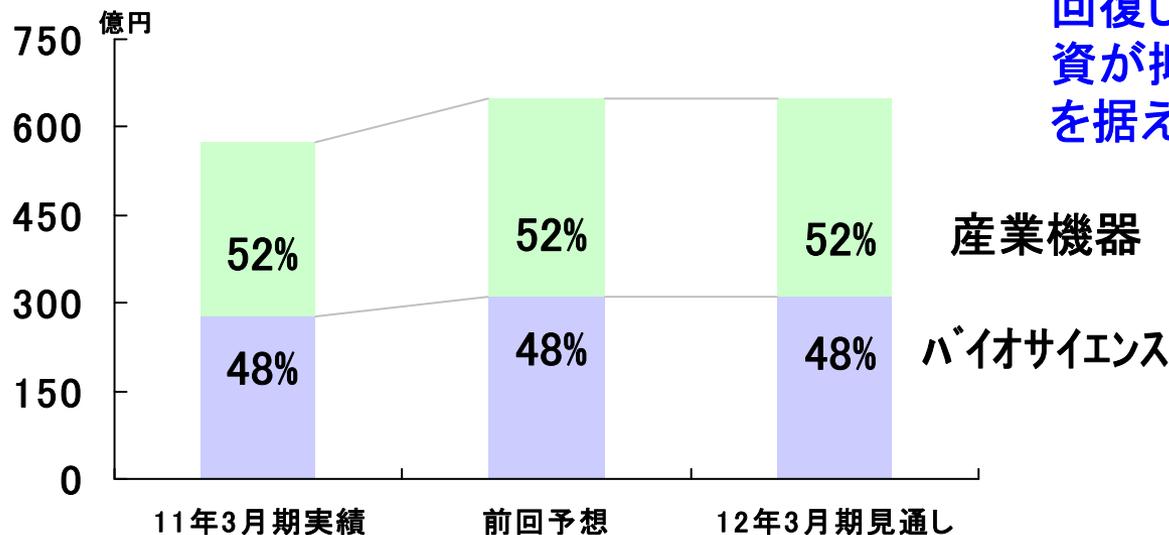
1Qの好調を受けて通期の売上高と営業利益を上方修正するが、2Q以降は欧米の景気不透明感や、販売競争激化の懸念あり

2012年3月期 見通し インstrumentカンパニー

株式会社ニコン
広報・IR部

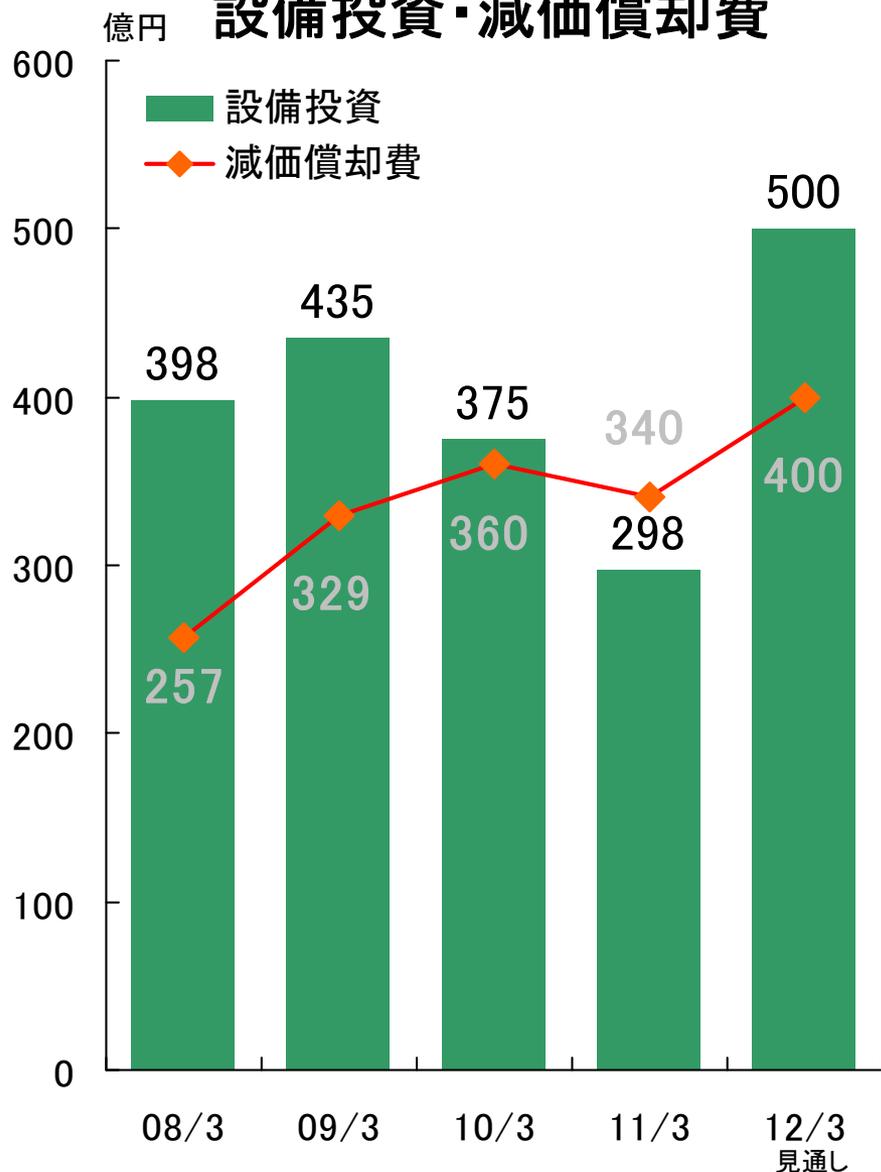


単位: 億円	11年3月期 実績	上期 下期	前回予想 (5/12)	上期 下期	12年3月期 見通し	上期 下期
売上高	575	$\frac{242}{333}$	650	$\frac{260}{390}$	650	$\frac{270}{380}$
営業利益 実績(参考:新方式) 売上高比	▲52(▲38) — % (— %)	$\frac{▲41}{▲11}$ ($\frac{▲34}{▲4}$)	5 0.8 %	$\frac{▲25}{30}$	5 0.8 %	$\frac{▲20}{25}$

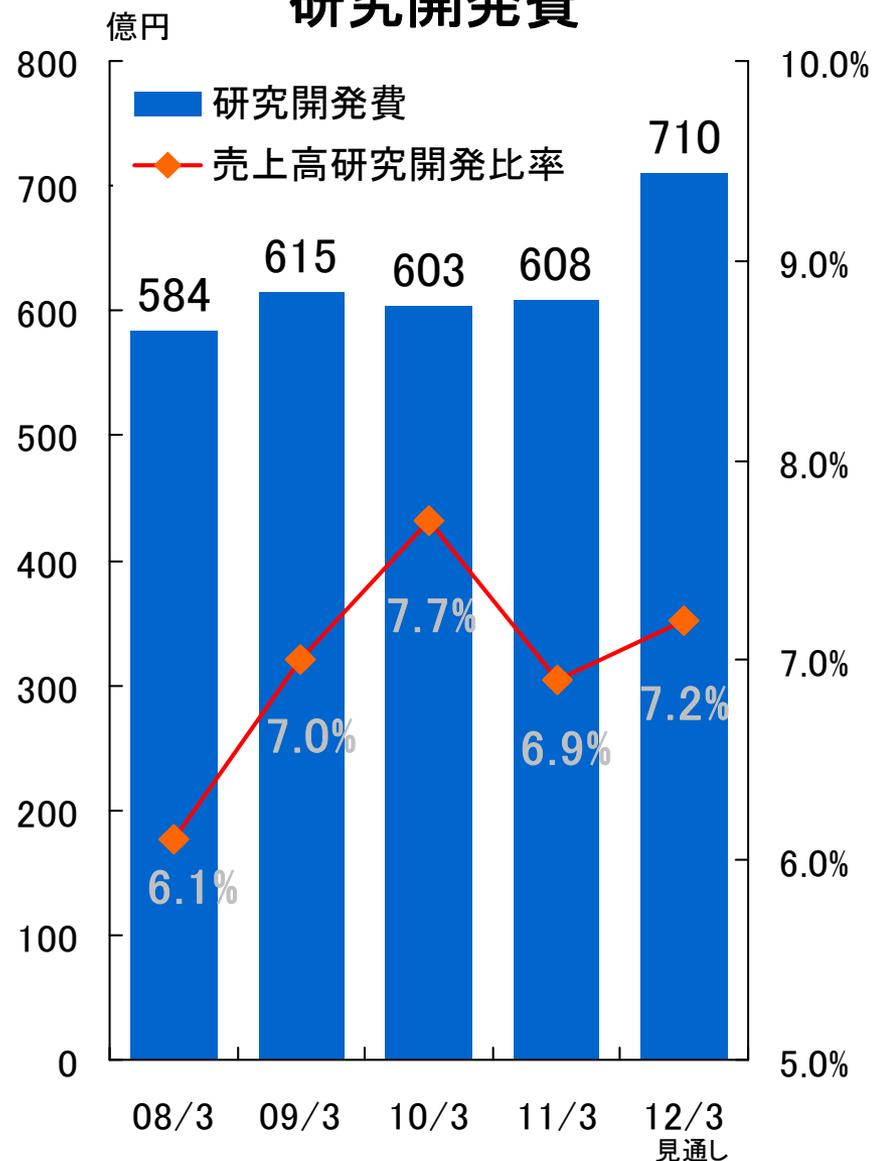


部材サプライチェーンは想定より早く回復しているが、半導体向け設備投資が抑制傾向にあるため、通期予想を据え置く

設備投資・減価償却費



研究開発費



注)09/3以降には、リース会計基準の変更に伴うリース資産の取得額を含む。

- ◆ 震災による部材サプライチェーンのダメージは、ほぼ回復。
通期の売上高・各利益を上方修正するが、下期は欧米の景気不透明感あり

【精機】

- ・半導体向け設備投資に抑制の動きあるが、今期の新品販売台数見通しは不変
- ・中小型パネル向け液晶露光装置の販売は順調

【映像】

- ・1Q実績を踏まえ上期の売上高と営業利益を上方修正するが、2Q以降は欧米の景気不透明感や、販売競争激化の懸念あり

【インストルメンツ】

- ・半導体向け設備投資抑制の影響や、各国の政府支出削減などの懸念があるが、通期計画は据え置く

- ◆ 為替前提を見直す(対ユーロ:115円→110円)

- ◆ 年間配当金は34円(中間配当金 17円)を予定
(従来予定は年間27円(中間10円))

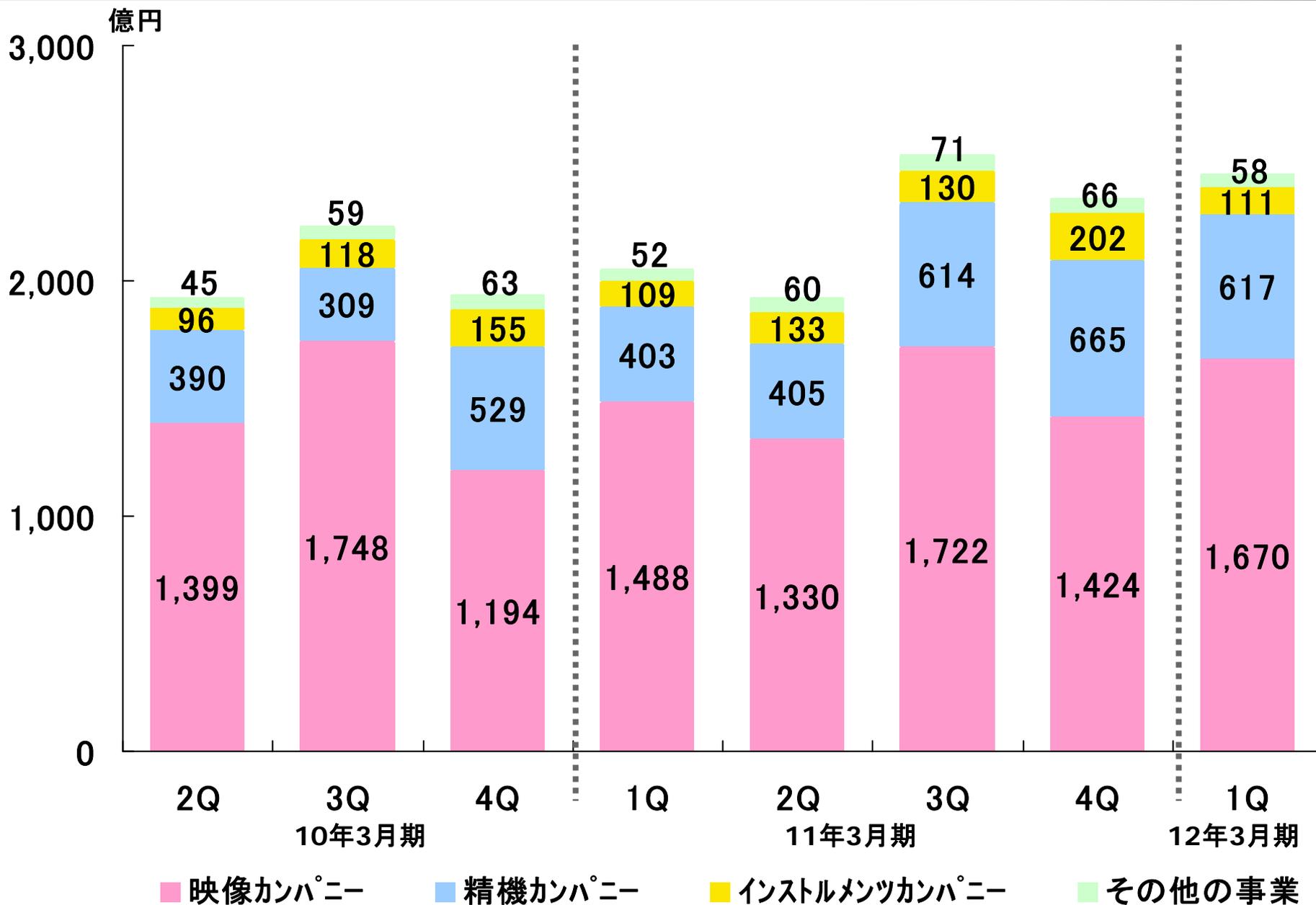
Agenda

- I. 2012年3月期 第1四半期の概況
- II. 2012年3月期の見通し
- III. 参考データ**

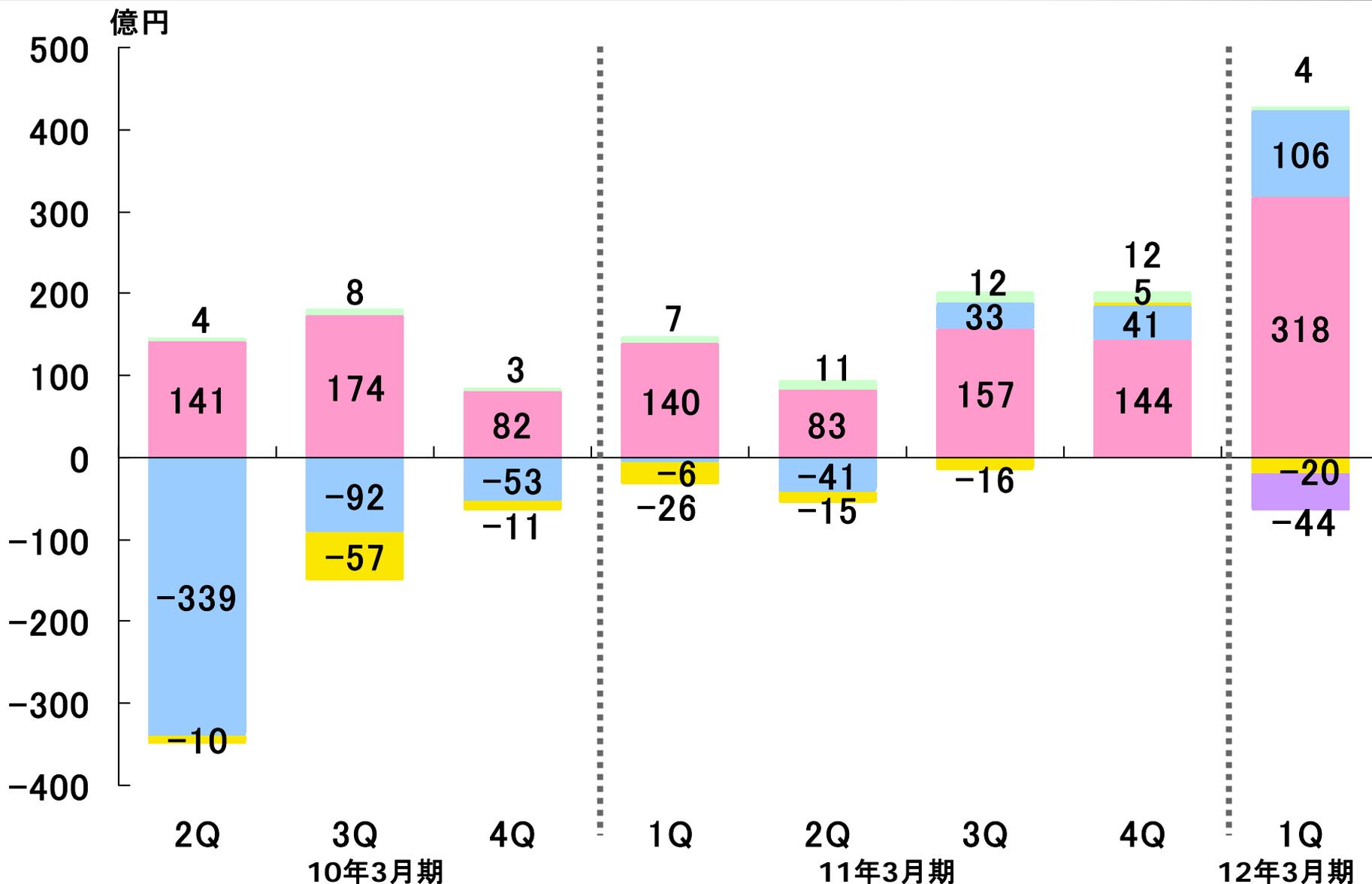
2012年3月期 見通し

	為替レート	1円の変動による影響額	
	12年3月期 2Q～4Q前提	売上高 2Q～4Q	営業利益 2Q～4Q
USドル	80円	約 49億円	約 8億円
ユーロ	110円	約 15億円	約 10億円

参考データ 四半期セグメント別売上高推移



参考データ 四半期セグメント別営業利益推移



■ 映像カンパニー ■ 精機カンパニー ■ インストルメンツカンパニー ■ その他の事業 ■ 全社費用



NIKON CORPORATION